

とある三人組のアイドル  
グループの  
屋外コンサート会場にて。  
冬近くの屋外でのイベントながら  
多くの観客が来場していた。





女子三人によるグループでありながら  
若い女性向けの音楽や活動を発信していた  
彼女達のコンサート会場には多くの若い  
女性達が集っている。





今日のコンサートライブも  
特設ステージの上を華麗に  
動き回るアイドル達と  
熱狂的な声を上げる  
ファン達によって





素晴らしい盛り上がりを見せていた。





会場内の熱気は膨れ上がり  
ファンの心の魅了し  
アイドル達の心を奮い立たせる。





史上最高の興奮が  
コンサート会場に広がり  
皆、その心地よい空気に酔い知れた。





素晴らしい  
興奮と熱気に包まれた会場



誰もが  
この時が永遠に続けば良いと  
思うような最高のステージ。



———そう誰も  
気付かなかつた。





未曾有の脅威が  
今まさに彼女たちを  
襲おうとしている事に。





それは一瞬の内に  
全てを豹変させた。





どこから降り注いで来のか、  
奇妙な色合いの閃光が  
コンサート会場のステージを  
照らし尽くした。





一瞬の明滅の後、

謎の閃光に包まれたアイドル達の姿が再びファンの前に表れた時、全てが変わっていた。



眩い光が晴れると  
ステージの上に奇妙な  
姿となったアイドル達の姿が……



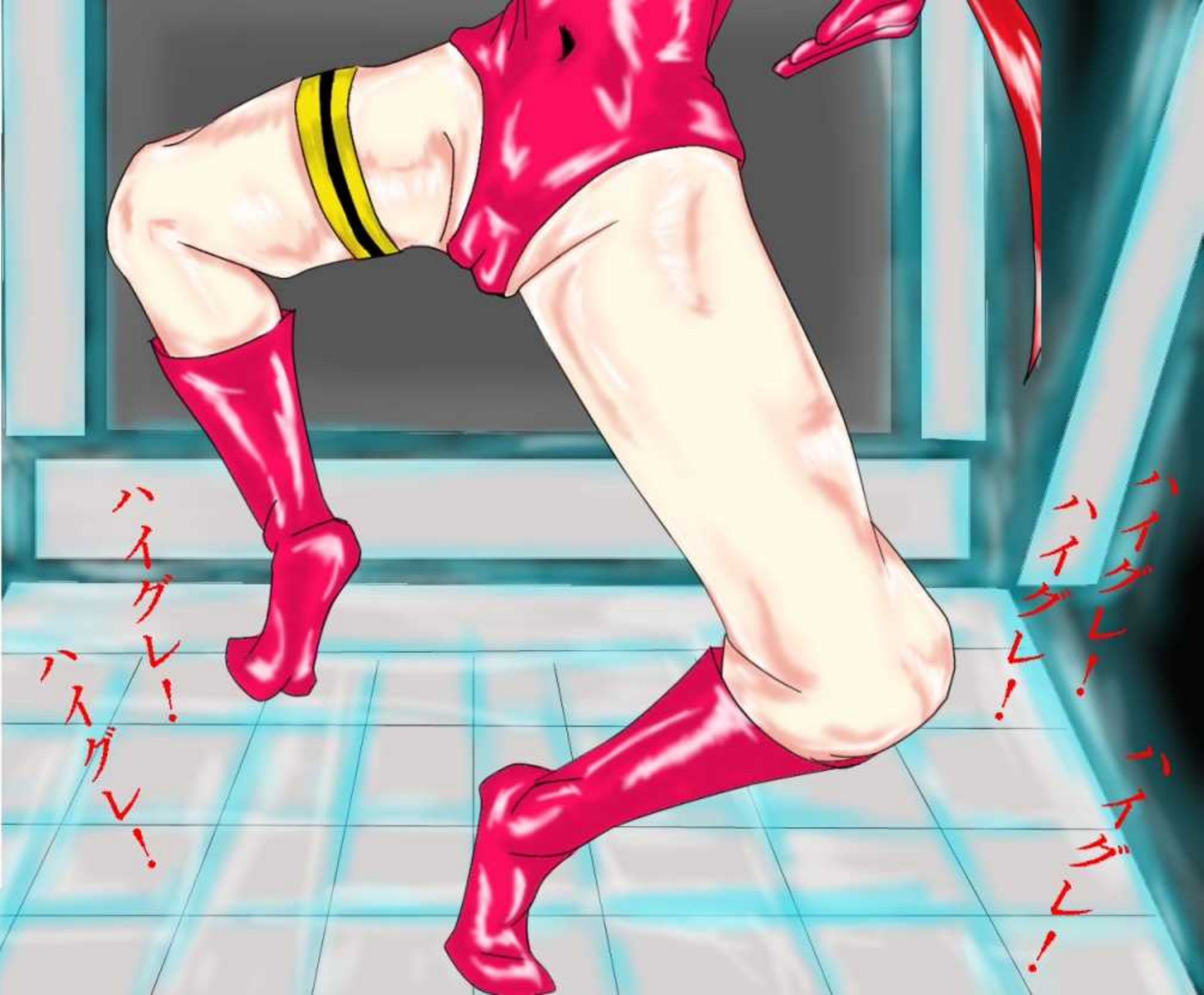


ハイグレ洗脳、ただいま完了しました！  
これよりハイグレアイドルとして  
活動を開始したいと思います！





アイドル衣装は大胆に四肢を露出したモノへと変化し、奇怪な動きと、奇妙な掛け声を上げ続け始めるアイドル。





大きく脚を開いてガニ股となり  
両腕を何度も何度も  
伸ばしたり折り曲げたりを繰り返す。

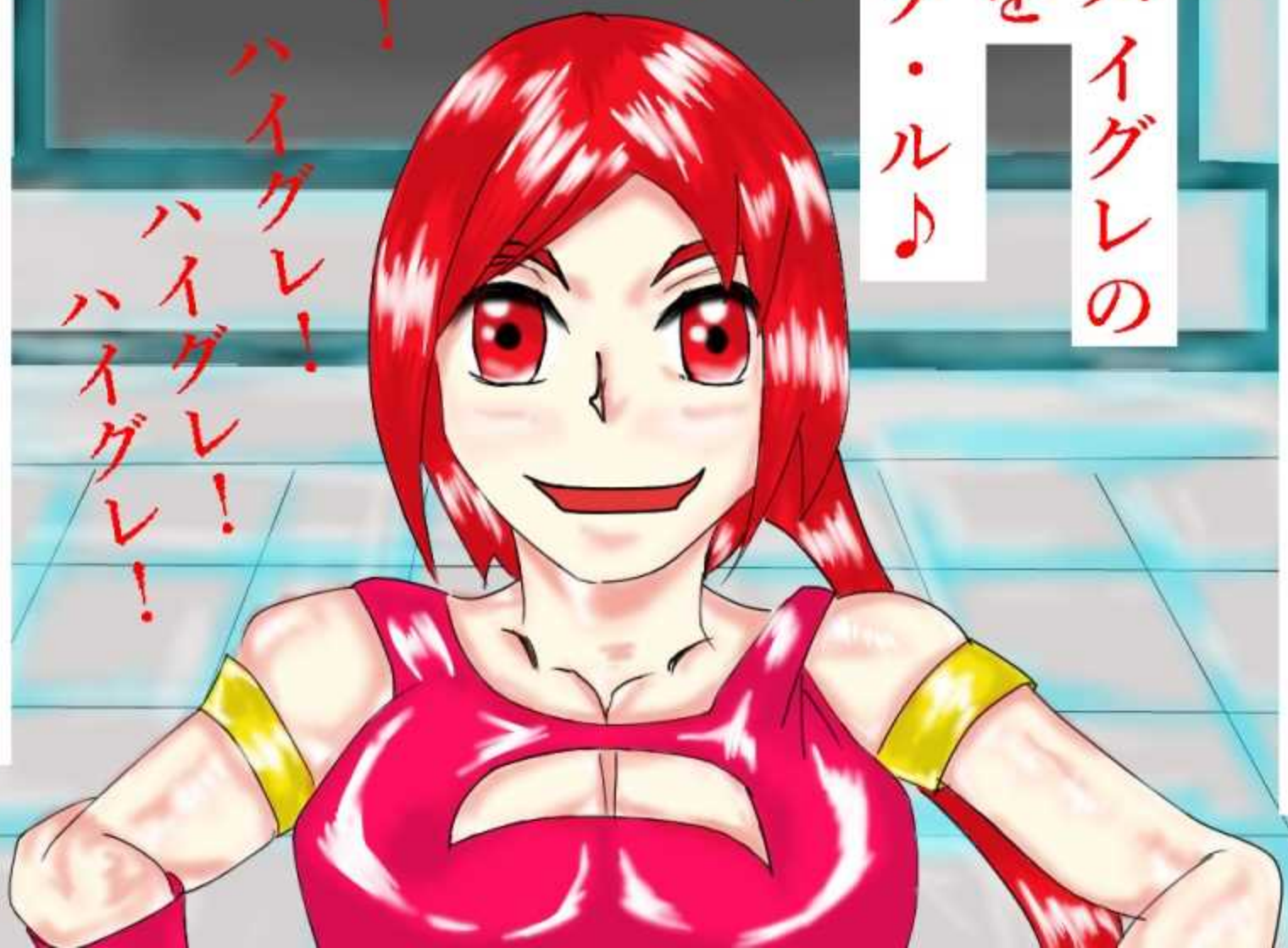


その奇妙な動作に合わせて  
変貌したアイドルはリズムカルな  
奇声を発し続ける。



フフフ♪ 最高の気分だわ！  
ハイグレ！ ハイグレ！  
本当に生まれ変わったような気分！

皆もすぐにハイグレの  
素晴らしさを  
教えてア・ゲ・ル♪



ハイグレ！  
ハイグレ！  
ハイグレ！  
ハイグレ！  
ハイグレ！  
ハイグレ！  
ハイグレ！  
ハイグレ！  
ハイグレ！  
ハイグレ！

そう言ってハイグレアイドル一号は  
とても幸せそうに  
ハイグレポーズを繰り返しながら  
高らかにハイグレコールを続けた。



ハイグレ!  
ハイグレ!  
ハイグレ!

ハイグレ!  
ハイグレ!  
ハイグレ!

元のアイドル衣装を模したハイグレ衣装がハイグレアイドル一号の全身をギチギチと締め上げる。  
ハイグレが乳房と股間を締め上げながら刺激する。

ハイグレ!  
ハイグレ!  
ハイグレ!  
ハイグレ!  
ハイグレ!

さらにハイグレポーズを取る度に快感の度合いが変化していき

・・・と、その前に  
あ・・・ぐう・・・  
イ、イグう・・・ッ!



ハイグレ！  
ハイグレ！

ハイグレ！

ギ  
チ  
ユ  
ツ

ギ  
チ  
ユ  
ツ

ハイグレ！  
ハイグレ！  
ハイグレ！

元のアイドル衣装を模したハイグレ衣装がハイグレアイドル一号の全身をギチギチと締め上げる。

ハイグレが乳房と股間を締め上げながら刺激する。

ハイグレ！

ハイグレ！

ハイグレ！

ハイグレ！

ハイグレ！

ハイグレ！

さらにハイグレポーズを取る度に快感の度合いが変化していき

．．．と、その前に  
あ．．．ぐう．．．  
イ、イグう．．．ツ！



快感の絶頂へ達し  
声を上げて反応した。

ハイグレス!

ハイグレ

ハイグレ!

ハイダレ!

ハイグレ!

ハイグレ!

ハイグレ!

ハイグレ!

ハイグレ!

ハイグレ!

ハイグレエエエエエエ！！！！！  
イツ・・・イギましたあ・・・ツ！！！！



ハイグレ！ ハイグレ！  
ハイグレアイドル一号、ただいまハイグレ人間に  
していただき初めての絶頂に達しました！  
ファンの皆もすぐに私と同じように気持ち良くな  
ってもらいます！



ハイグレアイドル一号となった彼女は  
目の焦点を狂わせながら  
どこか遠い場所に視線を送りながら  
自分自身をハイグレ人間へと  
洗脳した謎の存在へ宣誓を述べる。



ハイグレアイドル一号の  
秘所から体液が  
ひとすじ垂れ落ちる。

彼女のハイグレ  
ポーズに連動して  
股下に来た  
体液の水溜りに  
波紋の変化が  
生じる。

ハイグレ！  
ハイグレ！  
ハイグレ！  
ハイグレ！  
ハイグレ！  
ハイグレ！  
ハイグレ！  
ハイグレ！

彼女は絶頂に達し腰を  
前後に振動させながらも、  
ハイグレアイドル一号は  
ハイグレコールを続けて、  
ハイグレポーズを繰り返し、  
その快感に身を委ねる。





ハイグレ！ハイグレ！ハイグレ！  
ハイグレ！ハイグレ！ハイグレ！  
すごい！ハイグレ最高オ！  
ハイグレ！ハイグレ！ハイグレ！  
ハイグレ！ハイグレ！ハイグレ！



お股ギョングンして・・・すんごいの・・・！  
ハイグレ！ハイグレ！ハイグレ！  
きつと皆も体験すればすぐに分かってくれるわ！  
ハイグレ！ハイグレ！ハイグレ！  
ひっ・・・！またイグウウウツ！！？



ハイグレアイドル一号は  
一時の間、ハイグレの快感に身を委ねて  
際限の無い情欲の熱に身を焦がした。  
様々なハイグレポーズとハイグレコールの  
変化を試し、緩急の付けた  
ハイグレの快感を楽しんだ。



これまでの人生に関わる全ての記憶が残らず  
吹き飛ぶような快感に、彼女は身悶えし。  
彼女がハイグレをする度に、彼女のハイグレ洗脳は  
より深くなって行った。

ハイグレアイドル一号の表情は甘くとろけ、  
極度の快感に全身の筋肉が弛緩し、膝を折った。



こうしてハイグレ  
の快感に飲み込ま  
れたハイグレアイ  
ドル一号は、完全なハイ  
グレ人間となり洗脳を完了  
させた。

ハイグレ！

ハイグレ！

そして彼女  
はハイグレの  
手先となり、至高  
の幸福を感じるのであった。

ハイグレ人間にして  
いただきます！  
ハイグレ万歳！  
ハイグレ！  
ハイグレ！  
ハイグレ！